

愛知県へのアクセス

愛知県は日本の中央部に位置し、空港や新幹線、高速道路も充実し、全国からのアクセス良好です。信州、関東、関西、飛騨高山や金沢など、旅行の中継地点としてもご利用いただけます。

 新幹線を利用

東京駅	約1時間40分
新大阪駅	約1時間
京都駅	約40分
広島駅	約2時間10分

 飛行機を利用

千歳空港	約1時間50分
仙台空港	約1時間15分
福岡空港	約1時間20分
鹿児島空港	約1時間20分

「AICHI NOW」
交通アクセス



観光協会等連絡先

※祭礼行事の詳細・最新情報は各市町・観光協会にてご確認ください。

犬山市	犬山市観光協会 Tel: 0568-61-2825 愛知県犬山市松本町4-21 フロイデ(犬山国際観光センター)内
津島市	一般社団法人 津島市観光協会 Tel: 0567-28-8051 愛知県津島市南門前町1-8-1 尾張津島観光センター
愛西市	愛西市観光協会 Tel: 0567-55-9993 愛知県愛西市森川町井桁西27 立田ふれあいの里内
蟹江町	蟹江町観光協会 Tel: 0567-95-1111 愛知県海部郡蟹江町学戸3-1 蟹江町役場内
知立市	知立市観光協会 Tel: 0566-83-1111 愛知県知立市広見3-1 知立市役所内
半田市	半田市観光協会 Tel: 0569-32-3264 愛知県半田市東洋町1-8(アイプラザ半田内)

山車祭礼で巡る、
最深の愛知への旅。

”山車日本一あいち”

山・鉾・屋台行事

ユネスコ無形文化遺産に
登録された5つの祭り

愛知は全国最多の山車が残る、 “山・鉾・屋台行事”の宝庫。

“山車まつり日本一”を謳う愛知県は、全国最多の山車が現存します。
また、2016年にユネスコ無形文化遺産に登録された「山・鉾・屋台行事」においても
登録された33件のうち最多となる5つの祭礼行事が認定されました。

山車に施されたの細工やからくり人形への情熱は、
現代へ至る愛知の“ものづくり”の源流です。
郷土の伝統を伝える祭礼行事を受け継ぐまちには、
戦国時代や江戸時代へと連なる豊かな歴史と、
絢爛豪華な祭礼行事を育んだ、固有の文化が息づいています。



壇箱の彫刻



カラクリ人形



人形浄瑠璃



愛知県の公式観光ガイド AICHI NOW
「愛知の「山・鉾・屋台行事」

<https://www.aichi-now.jp/features/detail/155/>



愛知県の山車ポータルサイト
「あいちの山車まつり」

<https://www.dashi-aichi.jp/>



開催 4月第1土曜・日曜

犬山祭

犬山市



江戸時代から続く犬山祭は、犬山城の麓、針綱神社の祭礼。13輦の車山(やま)が城下町へと繰り出し、笛や太鼓に合わせて奉納からくり人形を披露します。夜には各車山に365個の提灯を取り付けた「夜車山(よやま)」の曳き出しが行われ、夜桜の中、城下町を練り歩きます。



国宝犬山城と城下町

国宝犬山城は、日本最古といわれる木造天守閣が現存し、城下町は今も多くの観光客で賑わいます。城下町の13町それぞれが有する3層の山車は「車山(やま)」と呼ばれ、その全てが独自のからくり人形を有しています。城下町の「どんでん館」では犬山祭の様子が常設展示され、4輦の車山展示も見ものです。また、「からくり展示館」では、精緻なカラクリの仕組みや、からくり人形の実演を見ることができます。

山車関連展示・施設

・犬山城下町散策 ・城とまちミュージアム、からくり展示館 ・どんでん館

立ち寄りスポット

・博物館明治村 ・野外民族博物館
リトルワールド ・日本モンキーパーク
・日本モンキーセンター

犬山観光情報

<https://inuyama.gr.jp>



廻船と醸造業で栄えた、山車と蔵のまち

半田市では、市内10地区で31輦の山車を有し、毎年3月から5月の「亀崎潮干祭」まで祭礼が行われます。山車を曳き廻すルートには、半田運河と醸造蔵、半田赤レンガ建物などの含まれる地域があり、醸造文化に支えられた歴史的な風景も一緒に楽しむことができます。また、5年に一度行われる「はんだ山車まつり」では、31輦の山車が勢揃いします。次回は、2022年10月8・9日の開催を予定しています。

山車関連展示・施設

・半田市立博物館 (山車の常設展示)
・MIZKAN MUSEUM
(風の回廊：法被・肴のモチーフ)

立ち寄りスポット

・MIZKAN MUSEUM ・調盛 酒の文化館
・半田赤レンガ建物 ・新美南吉記念館

半田市観光ガイド

<https://www.handa-kankou.com>



亀崎潮干祭

開催 5月3日・4日

半田市



半田市の北東部、衣浦港に面した半田市亀崎地区で、毎年5月3日、4日に行われるお祭りです。300年以上も続くといわれる神前神社の祭礼で、祭神である神武天皇が海よりこの地に上陸したという伝説にちなみ、5輦の山車を潮干の浜へ曳き下ろしたことから、この名がついたといわれています。豪華な刺繍幕や精緻な彫刻で装飾された見事な山車と、その山車を豪快に曳き廻す男衆の熱気と興奮、鳴り響くお囃子の調べと威勢のよい掛け声など、心が躍る祭りの世界観をぜひ体感してください。

山車関連展示・施設

・知立神社
・パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)

立ち寄りスポット

・弘法山 運照院 ・知立市歴史民俗資料館
・八橋かきつばた園

知立市観光協会

<http://www.chiryu-kanko.com>



開催 5月2日・3日

知立まつり

知立市



知立まつりは知立神社の祭礼として1年おきに本祭と間祭が行われます。本祭では知立神社に山車が奉納された後、山車の上で山車文楽と山車からくりが上演されます。人形浄瑠璃芝居の「山車文楽」と「山車からくり」は、江戸時代から伝わる郷土芸能で、文楽を山車の上で上演するのは知立だけといわれています。



東海道五十三次39番目の宿場町「池鯉鮒宿」

知立市は「池鯉鮒」と書き、古くから交通の要所で、鎌倉街道や東海道の宿場町として栄えました。八橋のカキツバタは在原業平に詠まれた歌でも知られ、歌川広重の浮世絵「東海道五十三次」には池鯉鮒宿として「首夏馬市」が描かれています。

須成祭

海部郡
蟹江町



蟹江町須成地区にある富吉建速神社と八郎社両社の祭礼として行われる川祭。「車楽船(だんじりぶね)行事」と「神葎(みよし)流し」にかかわる行事で構成されます。7月には船に乗る役者衆を決める「稚児定め」があり、そこから10月の「棚下し」まで、約100日間にかけて数々の祭事が行われることから、別名「100日祭」とも言われています。



須成祭の車楽船行事と神葎流し

車楽船行事には「宵祭」「朝祭」があり、宵祭では提灯をつけた巻藁船が、朝祭では人形を載せた車楽船が蟹江川に浮かびます。蟹江川にかかる御葎橋は、祭船が通る時のみ上がる可動橋で、その場面も見どころです。また、朝祭の「投げ花」で花を受け取って飾ると「良縁に恵まれる」「夏病みしない」などといわれており、人々は競って手を伸ばします。神葎流しは、川に茂る葎を刈り、これをご神体として祀り、一切の災厄を封じ込めて川へ流し、人々の豊かな生活を祈願するもので、朝祭の翌朝に行われます。

山車関連展示・施設

・蟹江町観光交流センター(須成祭ミュージアム)・富吉建速神社・八郎社

立ち寄りスポット

・蟹江町まちなか交流センター
・尾張温泉/足湯かにえの郷
・パン屋さん巡り(パンのまち蟹江)

蟹江町観光協会

<http://www.kaninavi.jp>



宵祭



津島神社の祭礼で、およそ600年の歴史をもつ天王祭は、「日本3大川祭り」のひとつにも数えられます。天王祭は宵祭・朝祭ともに水上で行われ、宵祭を彩るまきわら舟「津島五車」と、朝祭の中心となる愛西市の「市江車(いちえぐるま)」の計6輦の祭舟からなる舟の山車行事であることが大きな特徴で、全国の数ある夏まつりの中でも最も華麗なものとされています。また、この地域は戦国時代には織田家の一大商業拠点でもあり、織田信長も見物したと伝えられています。

山車関連展示・施設

・津島神社(津島市)
・天王川公園(津島市)
・津島市観光交流センター(津島市)

一般社団法人
津島市観光協会

<http://tsushima-kankou.com>



尾張津島天王祭

開催 7月第4土曜(宵祭)・翌日曜(朝祭)

津島市

愛西市



宵祭の翌日に行われる本祭の朝祭。「津島五車」の車楽舟に加え、愛西市を中心とした人々が担っている「市江車(いちえぐるま)」が先頭を進みます。尾張津島天王祭は、津島神社の神事であり、宵・朝祭は一連の神事の一部です。朝祭は、津島神社に新たな神(稚児)を迎え入れる様子を錦絵のように表した祭りと考えられます。先頭を行く市江車には、「鉾持ち(ほこもち)」と呼ばれる青年たちが乗船しています。この鉾持ちが車楽舟から池に飛び込み泳ぐ光景は朝祭の見所です。鉾持ちは神輿や稚児に先行することで、神が神社へ向かう道筋をつけています。

立ち寄りスポット

・道の駅立田ふれあいの里(愛西市)
・森川花はす田(愛西市)
・船頭平開門(愛西市)
・木曽川観光船(愛西市)

愛西市観光協会

<https://www.aisaikankou.jp>



朝祭

